

魅力発信！えひめ農業

令和8年2月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、2月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>


目次


目次	1
2月のトピックス5選	4
オランダ式環境制御技術の効果を実感する声が続々	4
第2回さといも優良種苗新增殖技術協議会を開催	4
緑肥作物やバイオ炭などを用いた園地の土壌改良状況を確認	5
「媛小春」の更なる認知度アップに向けたPR活動を実施	5
「AI選果機等見学会」を開催	6
えひめ農業	7
■東予地方局 地域農業育成室	7
新規就農者が病害虫対策や施設野菜を学ぶ研修会を開催	7
はだか麦の少雨対策を検討	7
産直市出荷者確保に向け市民向け野菜栽培講習会を開催	8
有機肥料普及推進セミナーを開催！！	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
軟腐病撲滅を目指しさといもセミナーを開催	9
生産者と消費者が交流し地産地消を推進	9
産地の維持拡大に向け、さといも・やまのいも栽培講習会を開催	10
さといも選果場で農福連携が始まる	10
首都圏でうま茶の販路拡大・PR	11
■東予地方局 産地戦略推進室	11
東予の花木産地活性に向け連携を深化	11
ぶどう根域制限栽培がスタート	12
■今治支局 地域農業育成室	12
「令和7年度農に風を起こす交流研修会」を開催	12
いちご部門の担い手育成	13
きゅうりのウイルス病・高温対策講習会開催	13
高校生を対象に就農啓発講座を開催	14
担い手確保に向け、移住相談会へ参加	14
いちご収穫作業体験を通して農業の魅力を高校生へ発信	15
グリーン・ツーリズム体験イベントを開催	15
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	16
わな猟スキルアップ第2回現地研修会を開催	16
新規就農者の経営状況調査の実施	16
有機農業者対象のかんきつ栽培技術研修会を開催	17
■今治支局 産地戦略推進室	17


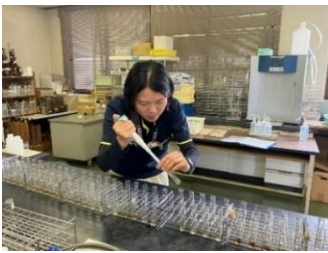
「しまなみみんなのディッシュ」の販路開拓及び会員拡大が順調に推移	17
■中予地方局 地域農業育成室	18
R8年産さといも‘単収増加に向けた栽培管理’について指導	18
新規枝物品目導入に向けた市場・先進地調査	18
「中予農業応援ボランティア」の推進について関係機関協議を実施	19
春季のいちご栽培に環境データを活用	19
農業研修生が農業簿記を学ぶ	20
青年農業者のせん定技術向上を図る	20
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	21
伊予地区農業者が「協同」による地域づくりを学ぶフォーラムを開催	21
「媛かぐや」の加工品開発と首都圏マーケティングによる販路開拓	21
気候変動に負けない生産を目指して肥料製造会社へ視察	22
青年農業者と留学生によるかんきつ試食交流会の開催と海外ニーズの把握	22
休日就農相談会を開催	23
「梅」がつなぐ地域の輪～連携の土壌づくりと労働力確保の取組み～	23
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	23
青年農業者の視察研修を実施	24
JA松山市ピーマン部会40周年記念大会を開催	24
■中予地方局 産地戦略推進室	24
そらまめ産地の強化に向けて今年度の取組み状況を報告	25
第2回「さくらひめ」検討会を開催	25
■南予地方局 地域農業育成室	26
いちご高温対策や環境モニタリングを講習	26
これから導入する人向けの農業用ドローン研修会を開催	26
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	27
加工品づくりで高校生と交流	27
鬼北農業の未来を切り拓く一ゆずを核に地域活性化につなげるー	27
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	28
農地の石垣修繕におけるノウハウの次世代継承を推進	28
期待高まる新品種「にじのきらめき」の栽培拡大がすすむ	28
■南予地方局 産地戦略推進室	28
県外客をターゲットに販促活動	29
■八幡浜支局 地域農業育成室	29
高周波音による鳥害対策実証結果の検討会	29
集落ぐるみの鳥獣害対策に取り組む	30
青年農業者が首都圏の小学生に西宇和かんきつをPR!	30
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	31
スマート農機の安全利用のための講習会を実施	31
地域の担い手が資質向上を目指して合同研修会を開催	31
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	31
西予で高温対策セミナーを開催	32


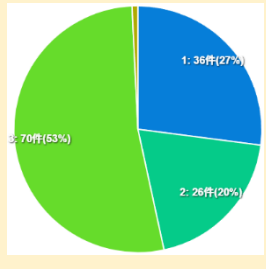
■八幡浜支局 産地戦略推進室	32
大阪で「媛小春」を PR 販売	32
■農産園芸課 高度普及推進グループ	33
普及指導計画取組み状況報告会で成果を共有	33

2月のトピックス5選

標 題	オランダ式環境制御技術の効果を実感する声が続々		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月5日～6日、16日	場所	西条市飯岡、吉井、壬生川	
指導対象	いちご農家（20人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来） 等	
普及指導内容	<p>○オランダの最先端栽培技術の導入により単収向上を図り、儲かる農業の実現を目指す局予算事業（R7年度～）において、今年度最後となるセミナー（2/16）と技術の定着を図るフォローアップ研修会（2/5～6）を開催した。</p> <p>○農家自ら実施した生育調査や環境計測のデータをもとに、専門家や普及指導員が個々の課題を抽出し、具体的な改善策を提示して指導した。</p>			
結果と今後	<p>○ある農家からは「種浮き果の多発に長年悩まされてきたが、普及指導員のフォローアップ指導により、日中のハウス内湿度がほかの農家よりも著しく低いことが分かった。午前中に通路散水を行ったところ、湿度が10%上がり、種浮き果率が8割からほぼ無くなって非常に助かった」との感想が聞かれた。</p> <p>○今後は、県全域に波及させるために、マニュアルの作成や実績報告会の開催を行う。</p>			
				
<p>専門家によるセミナー 普及指導員によるフォローアップ 日中湿度の改善事例（青線：改善後）</p>				

標 題	第2回さといも優良種芋新增殖技術協議会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月24日	場所	今治市大西	
指導対象	実証農家（4人）	連携機関	(株)岩谷産業、(株)伊予農産、JAおちいまばり、農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○当室では、局予算事業を活用し、生産者が優良種芋を低コストかつ短期間で生産できる新增殖法技術の確立に取り組んでいる。</p> <p>○本会では、エチレングス処理技術の検証や親芋直接採取増殖法の栽培実証より、生育・収量が慣行区と比較して同等あるいは少し上回ることを報告し、次年度に向けた実証内容の計画について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは「生育が揃うという点でも良い技術である」「複数の芽を付けた苗作りを検討してほしい」といった意見が上がった。</p> <p>○次年度は、生産した種芋の生産力検定や機械定植に向けた苗作り、病害対策の検討に向けて、関係機関と連携し取り組む。</p>			
				
<p>左：実証内容についての協議 右：萌芽処理施設や苗の状態を確認</p>				

標 題	緑肥作物やバイオ炭などを用いた園地の土壌改良状況を確認		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月10日	場所	松山市・砥部町の基盤整備園(下難波、浅海原、堀江、由良、砥部)	
指導対象	松山市、砥部町の基盤整備園入植者(12名)	連携機関	松山市農業指導センター、JA えひめ中央、地方局農村整備第一・第二課	
普及指導内容	<p>○当室では、かんきつ基盤整備園の早期成園化を目的に、下難波地区や由良地区など計5地区で、緑肥作物による草生栽培やせん定枝くん炭(バイオ炭)などを用いた土壌改良について実証試験を行っているところ。</p> <p>○今回、土壌改良の進捗状況を確認するため、園地ごとに土壌サンプリングを行い、松山市農業指導センターと連携して土壌分析(腐植、pH、EC)を実施。その結果、前回の調査時(令和7年1月)に比べて腐食が増加し、土壌改良効果を確認した。</p>			
結果と今後	<p>○調査結果では、実証を行った12か所すべての園地において、腐植が0.5~2.7%となり、目標の0.4%以上を達成するなど、草生栽培やバイオ炭の施用が土壌改良に効果的であることを確認した。</p> <p>○当室では、実証試験を継続するとともに、入植予定者を対象に土壌改良技術について周知し、早期成園化に向けた土づくりを支援する。</p>			
				<p>左：下難波地区における土壌採取</p> <p>右：腐植の測定</p>




標 題	「媛小春」の更なる認知度アップに向けたPR活動を実施		機関名	南予地方局産地戦略推進室 八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月7日、14日~15日	場所	大街道商店街(松山市大街道) きさいや広場(宇和島市弁天町)	
指導対象	—	連携機関	道の駅みま、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○「媛小春」の特長や魅力を伝える活動を通して認知度向上を図るため、県内イベント(松山市：愛ある食の市、宇和島市：宇和島産業まつり)においてPR活動を行った。</p> <p>○試食販売を行い、黄色い果皮と味の意外性や果汁の多さ、爽やかな甘さ等、食味の良さをPRした。また、アンケート調査を実施し、県内における認知度や価格、味の印象等についての現状把握を行った。</p>			
結果と今後	<p>○アンケートの結果、約50%の消費者が認知しており、食べておいしかったと来店するリピーターも多く、昨年度から比較しても、着実に認知度が向上していると実感した。</p> <p>○今春に苗木を導入する新規栽培者も多く、生産量は増加する見込みであることから、引き続き認知度向上を図り、「媛小春」ファンの獲得を目指す。</p>			
				<p>● 知っていたし食べたこともある ● 知っていたが食べたことはなかった ● 知らなかった ● 未回答</p> <p>左：当室職員が魅力を直接PR 右：アンケート結果 「媛小春」の認知度について</p>


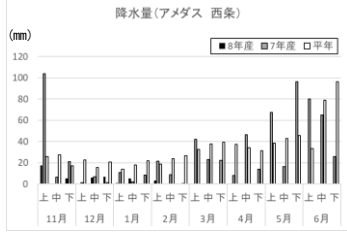

標 題	「AI 選果機等見学会」を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月26日	場所	八幡浜市川上町	
指導対象	八幡浜市認定農業者等協議会員等 (15人)	連携 機関	西宇和スマート農業推進協議会 (株)NPシステム開発	
普及指導 内容	<p>○当室が参画する西宇和スマート農業推進協議会は、かんきつ生産者の選果作業を省力化するAI選果機等の普及を図るため、「AI選果機等見学会」を開催した。</p> <p>○この選果機は、人手不足が深刻化する中で特に多忙となる収穫期の省力化に資するため、果実の外観評価を人工知能による画像解析技術で自動かつ高速で行うことが可能。</p> <p>○当日は生産者の協力で、選果機の実演と導入効果等について説明があった。</p> <p>○続いて、樹園地の気象データを観測する「気象ロボット」を見学し、当室が観測データに基づく栽培管理についての実証成果等について説明した。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは、選果機の導入コストや、設置に必要な面積等について質問が出る等、高い関心が寄せられた。</p> <p>○スマート農業機器の開発や普及には、事例収集やデータ蓄積が今後も必要であり、引き続き、取組みを継続する。</p>			



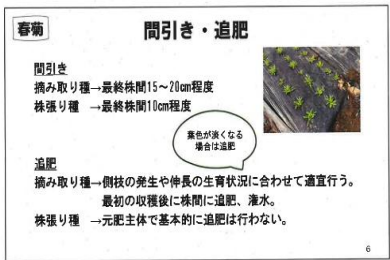




左：AI 選果機の導入事例
を見学
右：気象ロボットから得ら
れたデータの活用方法
について説明



えひめ農業

標 題	新規就農者が病害虫対策や施設野菜を学ぶ研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月2日	場所	東予地方局西条第二庁舎 西条市壬生川、氷見	
指導対象	新規就農者、青年農業者等（11人）	連携機関	病害虫防除所 西条市、新居浜市、JA周桑	
普及指導内容	<p>○新規就農者や青年農業者が栽培技術、経営知識を学ぶ研修会の第7回講座として、病害虫対策やいちご、葉わさびの施設野菜をテーマとした研修を開催した。</p> <p>○研修会では、病害虫防除所から野菜や果樹で問題となる病害虫と対策について説明を受けるとともに、農業指導士2人から、環境制御技術を導入した大規模いちご経営や契約栽培で取り組む葉わさびの栽培技術について現地指導を受けた。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、栽培スケジュールや病害虫管理などの質問が挙がり、栽培技術や経営知識の向上を図るとともに、新規品目導入に向けた前向きな姿勢がうかがえた。</p> <p>○次回、今年度の最終講座では、サルの習性と大型捕獲檻での捕獲について学ぶ研修を予定しており、今後も新規就農者や青年農業者の活動を支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>病害虫対策について説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>いちご栽培について説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>葉わさび栽培について説明</p> </div> </div>				

標 題	はだか麦の少雨対策を検討		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月10日	場所	JA えひめ未来あぐりセンター	
指導対象	JA えひめ未来稲作麦作支部長会（12人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○令和8年産はだか麦における少雨傾向の影響及び対策について説明した。</p> <p>○11月初めから少雨が続き発芽揃いの期間が長く、その後も無降雨日が多く、土壌が乾燥したことから生育が遅延し、追肥が効きにくい状況であることを説明。</p> <p>○対策として、土壌の乾燥や麦の生育状況、天気予報を注視し、追肥・穂肥を加減することを説明。</p> <p>○乾燥時においても追肥効果がある葉面散布材の試験を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○当日、出席農家からはここまでの冬季の乾燥は経験がないとの声が多く出された。</p> <p>○その後11日の降雨(8.5mm)で生育が進み、年内に施肥した追肥も土壌中に溶出し始めていることから、今後の穂肥の施用については、施肥の過多等がないよう引き続き、生育に応じた施肥を指導する。</p> <p>○葉面散布については、追肥を施用していないほ場で散布試験を行うこととしており、少雨時の施肥対策として効果を検証する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>生育の遅延（2月4日撮影）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>少雨の状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>葉面散布資材</p> </div> </div>				



標 題	産直市出荷者確保に向け市民向け野菜栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月10日	場所	JA えひめ新居浜経済センター	
指導対象	一般市民（33人）	連携機関	JA えひめ未来、新居浜市	
普及指導内容	<p>○新居浜市内中心部に今春リニューアルオープンする直売所「四季菜広場」の出荷品目の充実と直売所への出荷者を確保、育成するため、春野菜栽培講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、春菊、ホウレンソウ等の栽培管理や連作障害対策を説明するとともに、直売所への出荷の意向や個別指導の要望等を把握するためのアンケートを実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、春野菜の栽培スケジュールや土づくり、農薬以外でアブラムシを防ぐ方法などの質問があった。</p> <p>○アンケートでは、直売所への出荷に意欲的な回答もあり、今後、個別指導を希望する生産者には現地での栽培指導を実施するなどして直売所の品揃えの充実や生産者の育成を図る。</p>			
 <p>市民向け野菜栽培講習会</p>		 <p>講習会に参加した受講者</p>		 <p>野菜栽培講習会の資料</p>



標 題	有機肥料普及推進セミナーを開催！！		機関名	東予地方局農業振興課
年月日	令和8年2月17日	場所	西条市中央公民館	
指導対象	生産者、農業関係者等（約100人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	<p>○当課では、国際情勢の影響を受けやすく、地力低下の要因にもなる化学肥料に依存した農業からの脱却を図るため、令和6年度から、局予算事業により東予地域の未利用資源である「鶏ふん」「食品残さ」「下水汚泥」を原料とした有機肥料の開発及び普及推進を進めているところ。</p> <p>○生産者等を対象に、大学教授による講演及び地域農業育成室から試作有機肥料を用いた栽培実証結果を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○セミナーでは活発な質疑応答がなされ、参加者からは「有機肥料を導入することによる土壌改善のメリットが分かった」「果樹でも使用してみたい」等の意見が聴かれるなど有機肥料利用への関心が更に高まったことが確認できた。</p> <p>○セミナー閉会后、事業に参画する（株）日本有機四国から、同社が販売している有機肥料のサンプル提供があり、実際に使ってみたいという生産者が肥料を持ち帰るなど、管内での注目度も上がった。</p> <p>○3月に有機肥料利用促進協議会を開催し、次年度の事業計画を協議する。</p>			
 <p>左：愛媛大学上野副農学部長による講演</p>		 <p>右：有機肥料サンプルの提供</p>		



標 題	軟腐病撲滅を目指しさといもセミナーを開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年2月1日	場所	土居町文化会館	
指導対象	さといも栽培農家（125人）	連携 機関	農林水産研究所、JA うま、四国中央市、青果会社	
普及指導 内容	<p>○生産者がさといも軟腐病を正しく理解し、防除対策を効果的に推進するため、農林水産研究所等の協力を得てさといもセミナーを開催した。</p> <p>○セミナーでは、農林水産研究所担当者が軟腐病の病徴、現地調査、薬剤試験結果等について詳しく説明するとともに、今後の防除対策について講演した。</p> <p>○当班からは、管内で実施したマルチ資材の試験結果を報告するとともに、次年産の栽培技術のポイントを指導した。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは、銅剤散布の時期、注意点、効果等に関する質問が多数あり、関心の高さと封じ込めに向けた生産者の意気込みが感じられた。</p> <p>○引き続き、JA うま、農林水産研究所等と連携し、排水対策の徹底や銅剤散布等について講習会や個別指導で周知し、さといもの安定生産に取り組む予定。</p>			
				<p>左：担当者が試験結果や防除対策を説明</p> <p>右：現地でのマルチ資材試験（左より銀黒、白黒、黒）</p>


標 題	生産者と消費者が交流し地産地消を推進		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年2月7日	場所	JA うま総合経済センター	
指導対象	生活研究協議会員、青年農業者、認定農業者等（135人）	連携 機関	四国中央市農業振興課	
普及指導 内容	<p>○地域農業の振興や地産地消の推進等を目的に、四国中央農山漁村ふるさとづくり大会及び四国中央市地産地消・食生活推進フォーラムの開催を支援した。</p> <p>○大会では、輝らり果樹園が「果実とお客様と地域と共に成長してきた私たちの農業」と題して講演を行い、農業イベントや地域とのつながりにより農業・観光・商業が循環することの重要性を説いた。</p> <p>○また、事例発表に加えて協製茶場の協力を得て「おいしいお茶の入れ方講座」を開催するとともに、地元の特産品を用いた郷土料理等を振舞い、地産地消の推進を図った。</p>			
結果と 今後	<p>○大会を通じ、生産者と消費者の相互理解が深まり、更なる地産地消や食育の推進に努める機運が醸成された。</p> <p>○また、参加者は郷土料理に舌鼓を打ちながら試食し、「里芋や山の芋を使った料理講習にも参加したい」との意見が寄せられた。</p> <p>○当班は、今後も組織活動や地産地消・食育活動の推進を積極的に支援する。</p>			
				
輝らり果樹園による講演		協製茶場による講座		試食したふるさと料理


標 題	産地の維持拡大に向け、さといも・やまのいも栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年2月12日～13日	場所	JA うま各支店（土居、豊岡、三島）	
指導対象	さといも・やまのいも生産者（80人）	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○さといも、やまのいもの安定生産を図り産地の維持・拡大等を進めるため、JA うまと連携して植え付け前の前期栽培管理講習会を開催した。</p> <p>○さといもでは、近年多発している軟腐病や乾腐病の対策として、優良種芋の確保やほ場の排水対策の徹底等について、やまのいもでは、適正施肥の実施と植え付け後の土壌水分管理等について、それぞれ重点的に説明した。</p> <p>○また、やまのいも産地の維持・強化に向けて、面積拡大大部分の資材を助成する市単補助事業を紹介し、新規栽培や面積拡大を啓発した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者から、さといもの新しい肥料の試験結果や、少雨の影響により土壌が乾燥しているほ場の植え付け後の管理等について質問が多数あった。</p> <p>○引き続き、栽培指針に基づいた管理の徹底を図るため、定期的に個別巡回や講習会を通して指導する。</p>			
				<p>左：担当者がポイントを説明</p> <p>右：栽培講習会（豊岡）</p>



標 題	さといも選果場で農福連携が始まる		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年2月16日	場所	愛媛さといも広域選果場	
指導対象	就労継続支援B型事業所	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○農業の多様な担い手の確保と福祉事業所の就労機会の創出を目的に、さといも収穫作業の子芋、孫芋の分離作業の農福連携マッチングを行った。</p> <p>○1月12日、福祉事業所の理解促進に向け、農福連携実践者のほ場でさといも分離作業の見学会を開催し、1事業所が出席、作業の工程を確認し、分離作業を体験した。</p> <p>○1月29日、当該事業所がさといも広域選果場においてJA 職員の指導のもと、さといもの子芋と孫芋の分離作業を体験した。</p>			
結果と今後	<p>○当該事業所は、2月16日から広域選果場でさといも分離作業の従事を開始し、選果場の人手不足解消、福祉事業所の新たな作業の確保につながった。</p> <p>○また、これら取組みを農業者に広く周知するため、農山漁村ふるさとづくり大会や、さといも・やまのいも栽培講習会で紹介した。</p> <p>○管内農業者からは、やまのいも、さつまいもの農福連携を希望する声があったので、取組みの拡大に向け次年度対応する。</p>			
				<p>左：農福連携に向け、実践者のほ場でさといも分離を体験</p> <p>右：福祉事業所がさといも選果場で子芋から孫芋を分離</p>

標 題	首都圏でうま茶の販路拡大・PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年2月18日～19日	場所	東京都内各地、埼玉県入間市	
指導対象	四国中央市茶業販促グループ	連携機関	—	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「うま茶」の販路拡大・PR のため、「令和7年度儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」を活用して、首都圏での「うま茶」の販促活動を支援。 ○東京都では、せとうち旬彩館、NIWATORI COFFEE を訪問し、新商品を提案。 ○また、まごころ茶苑青山を訪問し、茶の販売動向について聞き取り調査を行った。 ○茶の先進地である埼玉県入間市では、視察先の的場園において園地や加工場、店舗を調査するとともに、園主との情報交換を行った。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○この結果、NIWATORI COFFEE では新たに常設販売が開始され、せとうち旬彩館でも新商品の販売開始の意向がうかがえた。 ○また、うま茶の有機栽培が消費者に需要があるということが分かった。 ○引き続き、県外等の販促活動の伴走支援を通してお茶の消費動向等を調査し、消費者の茶に対する考え方を把握し、需要に即した商品づくりの支援に取り組む。 			
				<p>左：店舗で常設販売される商品 (NIWATORI COFFEE)</p> <p>右：緩傾斜で広大な狭山茶の茶園</p>


標 題	東予の花木産地活性に向け連携を深化		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月12日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	東予広域花木連携会員（8人）	連携機関	JA（おちいまばり、東予園芸、えひめ未来）、県立丹原高校、農産園芸課、花き研究指導室	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○東予地域の花木産地の更なる発展を目指し、JA、県立丹原高校、県の花木生産振興関係者が一堂に会した「東予広域花木連携会議」を開催した。 ○農産園芸課による全国の花木産地の情勢報告に加え、県立丹原高校から「花木苗生産の取組み」、当室から「せん定実証試験」の成果を共有した。 ○JA から産地の課題として「多品種少量生産への対応」「新規品目の栽培マニュアルの整備」「猛暑対策」などが挙げられ、その対応について意見を交換した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○東予地域の高校の統合に伴う授業数減少等の課題がある中、県立丹原高校からは「引き続き地域貢献として花木苗生産に協力したい」との意向が示された。 ○新規品目も含め導入品種のうち、栽培環境や出荷計画に合った品種の選定を支援し、安定生産・販売を促進する。 ○次年度は要望のあったマニュアルの作成に向け、高温対策も含め情報収集と実証試験を実施する。 			
				<p>左：連携会議</p> <p>右：県立丹原高校の挿し木苗連携（10/15）</p>

標 題	ぶどう根域制限栽培がスタート		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月24日	場所	西条市壬生川	
指導対象	事業導入者（7人）	連携機関	(株) ゴールドラッシュ (有) 松田包装	
普及指導内容	<p>○「デジタル実装成果横展開支援事業」による園地整備が完了したことを受け、事業導入農家4戸を対象に現地研修会を開催した。</p> <p>○はじめに(株) ゴールドラッシュより、スマートフォンでの養液管理システムの操作方法や、園内の気象データ(気温・日射量等)のモニタリング方法の説明を受けた。</p> <p>○当室からは、2年後の初収穫を見据えた「主枝形成のための新梢管理」及び「当面の養液管理」について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加農家からは「手元でかん水状況をリアルタイムに確認できるのは画期的」「多機能であるため、操作の習熟には一定の時間が必要」などの感想が聞かれた。</p> <p>○今後は、農家が使いこなせるよう個別巡回によるフォローアップを強化するとともに、健全な樹体確保に向けた生育ステージごとの栽培管理指導を継続する。</p>			
				
スマートフォンによる操作研修		養液管理システム		給液管理と栽培管理について説明

標 題	「令和7年度農に風を起こす交流研修会」を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月10日	場所	イオンモール今治新都市	
指導対象	今治・上島地区農業者（108人）	連携機関	今治地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	<p>○今治・上島地区の農業者が集い、青年農業者や各地で活躍する経営事例等について情報や意見を交換し、地域農業の活性化を目指すことを目的とした「令和7年度農に風をおこす交流研修会」を開催した。</p> <p>○研修会は、「今治・上島の魅力と農業の可能性～地域との出会い、きっかけ、将来設計～」をテーマに、I・Uターンして地域で活躍する農業者2組の事例発表、県立今治南高校・えひめ農業未来カレッジ生徒のプロジェクト発表等で構成。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「経営安定のために規模拡大すると効率化が求められるが、若い視点で精力的に取り組む姿は、励みになった」「新規就農を目指し研修中なので、身近な事例が参考になった」等の声が聴かれ、今後の農業経営の糧となる研修会となった。</p> <p>○当室では、今後も次代を担う農業者の育成に努める。</p>			
				
			<p>左：100人を超える農業者等が参加 右：事例発表する管内農業者</p>	

標 題	いちご部門の担い手育成		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月5日、20日	場所	JA おちいまばりグリーン富田、今治市中寺	
指導対象	農事組合法人サポート中寺（1人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○農事組合法人サポート中寺が令和7年4月に社員として採用した新規学卒者を、いちご部門が一任できる人材として育成するために、講習会を開催した。			
結果と今後	○当室では、いちご部門が法人経営の一つの柱として成り立つよう、炭酸ガス発生装置等の施設整備やハウスの増単収計画について指導助言した。 ○講習会の開催により必要な基礎知識や技術の習得が図れたことから、今後も引き続き指導する。			
				
			<p>左：講習会 右：栽培管理個別指導</p>	

標 題	きゅうりのウイルス病・高温対策講習会開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月19日	場所	JA おちいまばり営農経済事業本部	
指導対象	JA おちいまばりきゅうり部会（95人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○管内主力野菜であるきゅうりについて、令和7年は増収等により販売額が247百万円（昨年対比110%）と過去最高となった。 ○令和6年産は、アブラムシが媒介するウイルス病の多発により収量および品質低下が問題となったことから、ウイルス病対策を周知した。 ○また、JAと連携して実証した2種類の遮熱ネット（遮光率45%）の実証結果を報告した。			
結果と今後	○ウイルス病対策は定植後1か月程度が重要であることが理解され、ワクチン接種苗については、実証ほを設置して効果を検証することとした。 ○7月定植の雨よけハウスの作型においては、タイベックを使用したネットにより、日中のハウス内温度が下がり作業性は向上したものの収量は減少した。 ○高温対策については次年度引き続き検証を行う。 ○きゅうり部会は、新たな生産者確保に向け、新規栽培希望者説明会を3月14日に開催する予定。			
				
ウイルス病対策等講習			ウイルス病の発病株（被害果実）	
				
遮熱ネットの栽培実証				

標 題	高校生を対象に就農啓発講座を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月2日	場所	県立今治南高校 日高農場	
指導対象	県立今治南高校 園芸クリエイト科1～2年生(65人)	連携 機関	えひめ農業未来カレッジ、農地・担い 手対策室	
普及指導 内容	<p>○農業への理解促進と就農への意識向上を目的に開催し、先輩農業者（えひめ愛顔の農林水産人）から、就農後の経験を踏まえた農業の魅力ややりがいなど、就農への提言を行った。</p> <p>○また、SNSを通じた農林水産業の魅力発信につなげる、えひめ農林水産業魅力発信事業やえひめ農業未来カレッジから、カリキュラムや学校生活について情報提供した。</p>			
結果と 今後	<p>○生徒からは、「就農の相談はどこにしたらよいのか」「今治地域の農業のイメージがわいた」などの質問や感想があった。</p> <p>○地域農業の魅力発信などにより就農への意欲を高め、担い手の確保・育成につなげていくことを目的に、今後も継続的に開催していく。</p>			
 <p>先輩農業者からの提言</p>				

標 題	担い手確保に向け、移住相談会へ参加		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月8日	場所	大阪府大阪市	
指導対象	就農相談者（4人）	連携 機関	今治市、JAおちいまばり	
普及指導 内容	<p>○新規就農者の確保に向けた新たな取組みとして、移住担当部署と連携し、今治市・西条市が合同で開催する移住フェアに参加し、就農相談を実施した。</p> <p>○フェアでは、移住し就農した2人がアドバイザーとして参加し、トークセッションで今治市や農業の魅力を伝えた。</p>			
結果と 今後	<p>○当日の今治市への移住相談者は11件18人で、うち3件4人からの就農相談に対応した。</p> <p>○「技術習得に向けた研修の内容を教えてください」「農地の確保はどうすればよいのか」「住宅はあるのか」等、相談者からの具体的な質問に対し、回答した。</p> <p>○当室では、今後も関係機関と連携し、就農相談会や移住フェア等へ参加して新規就農者の確保を目指す。</p>			



左：就農相談を実施

右：トークセッションで
農業の魅力伝える

標 題	いちご収穫作業体験を通して農業の魅力を高校生へ発信		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月17日	場所	しまなみいちご園（今治市中寺）	
指導対象	県立今治南高校 生徒（12人）	連携機関	県立今治南高校、今治 CATV、農事組合法人サポート中寺、JA おちいまばり	
普及指導内容	○農作業を学ぶ機会を通じて農業への関心を高めることを目的に、第3回いちご栽培農作業体験（収穫、出荷調整作業）を開催した。 ○当室より、いちご栽培を支える機械装置（ハウス内環境制御技術）や6次産業化への新たな取組みについて説明を行うとともに、生産者が収穫・出荷調整作業を指導し、実習を行った。			
結果と今後	○生徒たちは、これまでに定植・葉かぎ等の管理作業を実施しており、生育状況を観察しながら収穫作業に取り組んだ。 ○今年度3回にわたり実施したいちご栽培作業体験は、今治 CATV が 30 分程度の番組として地域情報チャンネルで放送予定。			



収穫のポイントを説明



収穫作業を実施







指導を受けパック詰めを体験


標 題	グリーン・ツーリズム体験イベントを開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月22日	場所	しまなみいちご園（今治市中寺）	
指導対象	体験者 50 組	連携機関	JA おちいまばり、農政課	
普及指導内容	○えひめグリーン・ツーリズムナビに登録するしまなみいちご園と森のともだち農園が連携し、グリーン・ツーリズム体験イベントを開催した。 ○当室では、体験イベントの企画及び周知等を支援し、しまなみいちご園で収穫したいちごを使った「フルーツサンドづくり」体験者 50 組に指導を行った。			
結果と今後	○参加者からは、「初めてなので上手くできるか心配」「新鮮ないちごを使ったフルーツサンドを食べるのが楽しみ」「こんな体験イベントがあればまた参加したい」等の声が聞かれた。 ○当室では、今後も生産者と消費者が交流できるイベントを企画し、農業の魅力を発信していく。			




左：フルーツサンドづくりを指導
中央・右：実施内容を SNS で紹介

標 題	わな猟スキルアップ第2回現地研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和8年2月26日	場所	今治市上浦町井口	
指導対象	青年農業者（2名）	連携機関	（株）野生鳥獣対策連携センター、 農産園芸課	
普及指導内容	<p>○わな猟の技術等を習得するために、イノシシの侵入被害のある園地での実践研修会を開催し、若手狩猟者の育成プログラム（（県）わな猟スキルアップ実践事業）を受講する大三島の青年農業者2名が参加した。</p> <p>○被害園への、イノシシの侵入経路や周辺の獣道を特定しながら、「くくりわな」の適切な設置や、止め刺しなどの捕獲後の処理方法等について専門家のアドバイスを受け、捕獲に向けた実践的な技術を学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○受講生からは、「野生鳥獣の生態に基づく効果的なわなの設置方法について理解が深まった」「捕獲体制を整えて、自園地を加害するイノシシを捕獲していきたい」といった意見が挙がるなど、捕獲活動に前向きな姿勢がうかがえた。</p> <p>○今後も引き続き、専門家と連携しながら、青年農業者等の捕獲技術の向上と体制の整備等、地域の鳥獣害対策の推進に向けて支援していく。</p>			
				<p>左：侵入経路等の特定 右：くくりわなの設置</p>

標 題	新規就農者の経営状況調査の実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和8年2月3日～4日	場所	上島町役場岩城総合支所、上島町岩城・生名	
指導対象	上島町かんきつ栽培者（4名）	連携機関	上島町農林水産課、県農業指導士	
普及指導内容	<p>○上島町での経営開始資金受給者を対象に、農業経営状況や栽培園地管理状況について、確認調査を実施した。</p> <p>○調査対象者4人から直近の経営状況（栽培規模、収支決算状況等）について説明を受け、経営課題や今後の経営方針等に関する意見交換を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○今回の4人は就農計画の収入目標をいずれも達成しており、設備投資や規模拡大計画など前向きな意見が聞かれた。</p> <p>○課題として夏場の高温対策や規模拡大に伴う労力不足、資材高騰対策などがあり、補助事業や計画遂行の注意等について助言した。</p> <p>○上島町から農業者を対象とした物価高騰対策の次年度町単事業を紹介し、今後、農地の情報や就労者希望などの情報を速やかに共有していくことが伝えられた。</p> <p>○県では、関係機関と連携し、新規就農者の経営安定のため技術・経営指導を継続して行う。</p>			
				<p>左：経営状況等の聞き取り調査 中右：新規就農者の園地確認</p>

標 題	R8年産さといも‘単収増加に向けた栽培管理’について指導		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月2日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	さといも生産者（31人） JA えひめ中央研修生（4人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○当室では、さといも生産者の栽培技術の向上を目的に栽培講習会を開催し、生育前期の基本的な栽培管理について指導した。</p> <p>○講習会では、定植後2カ月間における栽培管理のポイントについて、研究成果や実証結果等を踏まえながら説明。</p> <p>○栽培期間を通じて安定生産を行うには、まずは水利の良いほ場を選定することが重要であることを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「単収増加を目指して基本管理を徹底したい」「作業ごとにどういった効果があるのか理解でき、非常に勉強になった」などの意見があり、基本管理の重要性について認識を高めることができた。</p> <p>○今後も、講習会を通して栽培中期から後期の重要ポイントについて指導するとともに、課題解決に向けた実証試験等を実施し、安定生産技術の高位平準化を図る。</p>			
		<p>さといも栽培講習会</p>		

標 題	新規枝物品目導入に向けた市場・先進地調査		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月3日～5日	場所	大阪府大阪市、三重県津市	
指導対象	JA 松山市ユーカーリ専門部 JA えひめ中央花木部会	連携機関	なにわ花いちば、花き小売店 タナカ園芸、JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○ユーカーリを核とした花きの周年供給体制を確立するため、関西地方の市場や小売店、種苗業者を対象に流通調査を実施し、市場・消費者ニーズ等について情報収集した。</p> <p>○今回の調査は、近年の枝物人気の高まりにより、ユーカーリの端境期（4～8月）を補完する新たな品目を出荷して欲しいとの市場からの要望を受けて実施。</p>			
結果と今後	<p>○流通関係者からは、枝物需要は今後も堅調で、更なる伸びが期待できるほか、特に夏季の端境期に安定供給することができれば、市場での優位性も高まると助言を得た。</p> <p>○種苗会社からは、有望品目の選定材料として、栽培特性（開花特性、水・肥培管理など）や売れ筋品目などの情報を得ることができた。</p> <p>○今後は、更なる情報収集を行いながら、有望品目の選定及び栽培実証に取り組み、中予地域の花き産地の強化を図る。</p>			
		<p>種苗業者の苗木生産ほ場の視察</p>		

標 題	「中予農業応援ボランティア」の推進について関係機関協議を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月12日	場所	中予地方局	
指導対象	-	連携機関	JA えひめ中央、(株) まちペイ	
普及指導内容	<p>○昨年12月から「中予農業応援ボランティア」の取組みを開始し、中予管内農業者における農繁期の労働力確保を支援しているところ。</p> <p>○体制構築及び運用にあたって、当室が中心となり関係機関による3者協議を今年度計5回開催しており、今回は、本年度におけるボランティア実施内容の検証と次年度実施方針の検討を行った。</p>			
結果と今後	<p>○実施内容の検証では、生産者側における支障等は現時点でないとの報告があったほか、参加ボランティア側でもまちペイポイント引き換えは全て完了しており、本年度は円滑に運営できていることを確認した。</p> <p>○次年度の実施方針として、ボランティア推進地域や作目を拡大していくことを決定するとともに、具体的な内容や推進スケジュールを詰めていくことを共有した。</p> <p>○引き続き、次年度における本ボランティアの円滑な実施のため、関係機関と連携しながら、啓発チラシをはじめとした資料作成やポイントカード発行準備を進めていく。</p>			







左：中予農業応援ボランティア概要

右：啓発チラシ（現行）



標 題	春季のいちご栽培に環境データを活用		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月20日	場所	東温市内各地	
指導対象	いちご生産者（4人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○いちご若手生産者グループ（だんだんの会）の技術力向上を図るため、第4回勉強会を生産者ほ場で実施。</p> <p>○会では、低コスト環境モニタリング機器（2台）によりハウス内環境データを収集して栽培管理に活かすとともに、春季に発生する病害虫防除について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○2月は、日の出直後からハウス内温度が急上昇するため、換気のタイミングや適正な飽差値を維持する必要があることから、勉強会では、生産者のハウスごとの管理状況について意見交換を行うとともに、改善点について確認した。</p> <p>○また、ハダニ類・アザミウマ類に対する各種薬剤の効果について意見交換するとともに、うどんこ病は予防対策と発病初期の防除に重点を置くことで防除効果が高まることを確認した。</p> <p>○引き続き、環境データの収集・分析を行い、安定生産を支援していく。</p>			







生産者同士で意見交換

標 題	農業研修生が農業簿記を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月20日、24日	場所	JA えひめ中央東部営農支援センター 松山市泊公民館	
指導対象	就農研修生、新規就農者、認定農業者（53人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市） 松山地区農業経営者協議会	
普及指導内容	<p>○税理士を講師に農業簿記記帳による農業経営研修会を開催。</p> <p>○例年、認定農業者のみを対象にしていた研修会を、今回、新規就農研修機関からの要望を受け、研修生にも役立つ農業簿記の必要性等の内容を追加して実施。</p> <p>○当日は、税理士より農業簿記の必要性や青色申告のメリット、決算処理のポイント等の説明があった後、普及指導員も連携して農家個々の経営相談等に対応した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した新規就農者から「書類の整理や保存の仕方、青色申告のメリットなどがわかり農業経営に活かすことができ良かった」、認定農業者からは「新たな税制上の改正点を知ることができた」「個別に経営相談でき良かった」などの意見があった。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、研修会等を通じて研修生等のスキルアップを支援する。</p>			
				<p>左：税理士による説明</p> <p>右：普及指導員による個別経営相談</p>


標 題	青年農業者のせん定技術向上を図る		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月26日	場所	松山市中島大浦	
指導対象	中島青年農業者協議会会員（9名）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○今年度の現地実証結果やせん定作業におけるポイントを説明した後、せん定技術の現地実習を行った。</p> <p>○豊作であった「甘平」の若木園では、結果母枝の残し方や切除する枝について、ベテラン農家を講師に、参加者自らがせん定作業を実践した。</p> <p>○参加した青年農業者らは、個々の考え方の違いにより、せん定方法が様々になることが解り、ベテラン農家からの説明を興味深く聴きいていた。</p> <p>○また、「せとか」の2年生園での現地実習では、園主の青年農業者から、十分な管理を施すことで樹冠を拡大させ、3年目からの結実が可能であるとの報告があり、参加者は熱心に栽培管理状況を確認していた。</p>			
結果と今後	<p>○青年農業者協議会員の園地での研修は、他の会員への刺激となり、特に栽培経験の浅い会員には効果的であった。</p> <p>○引き続き、同協議会の各種行事を通じて、会員の資質向上を支援していく。</p>			
<p>【中島青年農業者協議会】 20代から50代まで幅広い会員30名で構成。 栽培研修や経営研修、先進地視察などを実施し、会員の資質向上に努めている。</p>				<p>左：せん定作業を学ぶ青年農業者</p> <p>右：苗木管理のポイントを学ぶ</p>



標 題	伊予地区農業者が「協同」による地域づくりを学ぶフォーラムを開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年2月2日	場所	伊予市総合福祉センター	
指導対象	認定農業者、青年農業者、女性農業者、県立伊予農業高校生徒等 (82人)	連携機関	伊予地区農業・生活研究フォーラム 実行委員会（伊予地区農業改良普及事業推進協議会）	
普及指導内容	<p>○伊予地区の持続的な農業発展に向け、当班が事務局となり、認定農業者をはじめ青年・女性農業者、高校生等が広く参画する地域フォーラムを開催した。</p> <p>○基調講演や農福連携等の事例紹介を通じ、組織の垣根を越えた「協同」による地域づくりの重要性を普及啓発した。</p>			
結果と今後	<p>○フォーラムでは、個々の経営改善に加え、福祉や教育と連携した社会全体での体制構築が不可欠であるとの認識を共有した。</p> <p>○当班では、ここで得られた専門的知見や先進事例を具体的な振興策に反映させるべく、関係機関への助言を強化する。</p> <p>○今後は、構築したネットワークを活用した情報共有を推進し、次世代へ継承できる強い農業・農村づくりの実現に向けた指導を継続していく。</p>			
				<p>左：藤井講師（松山大学）による基調講演</p> <p>右：お米とさといもの試食</p>

標 題	「媛かぐや」の加工品開発と首都圏マーケティングによる販路開拓		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年2月3日～5日	場所	東京都内各地、神奈川県大和市	
指導対象	—	連携機関	東京事務所、(株)ダイイチフーズ	
普及指導内容	<p>○当班では、「媛かぐや」産地育成事業（局予算）において、高付加価値化と販路開拓の両面から指導・支援を実施しているところ。</p> <p>○この活動の一環として、加工製造業者の新商品開発に合わせ、首都圏の中高価格帯市場を標的とした合同マーケティングを展開した。</p>			
結果と今後	<p>○紹介した首都圏の6社中5社が初見ながら、繊細な素材特性から、具体的に「和菓子・和食原料としての適性が高い」などの高い評価を得た。</p> <p>○今後、『第2回「媛かぐや」産地育成推進会議』を開催し、実需者ニーズを生産現場へフィードバックのうえ、加工用を含む安定供給体制の構築を指導し、生産者の所得向上と産地振興を図っていく。</p>			
				<p>合同マーケティングの様子</p>



標 題	気候変動に負けない生産を目指して肥料製造会社へ視察		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年2月10日	場所	広島県尾道市、竹原市	
指導対象	—	連携機関	JA(全農えひめ、松山市、えひめ中央)	
普及指導内容	<p>○伊予地区農業技術者連絡協議会農産部会(事務局:当班)は、気候変動下での水稻・畑作物の安定生産を目指し、技術的アプローチとして「けい酸加里」に着目した視察研修を実施した。</p> <p>○研修では、本資材が蒸散調整による葉温上昇の抑制や、デンプン蓄積の促進による乳白粒低減に寄与する効果を確認するとともに、特に、く溶性である点がケイ素吸収のピークに合わせた生育後半の肥効につながり、耐性向上に有効であることを重点的に学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は実証事例に基づく施用効果への理解を深め、指導現場で即応可能な技術を習得した。</p> <p>○今後は、本視察で得た知見を現場指導に反映し、実地での実証展示等を通じて、高温障害に強い生産体制の構築を強力に推進していく。</p>			
				
けい酸加里肥料について研修		製造工場の視察		


標 題	青年農業者と留学生によるかんきつ試食交流会の開催と海外ニーズの把握		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年2月16日	場所	伊予鉄会館(松山市大街道)	
指導対象	伊予地区青年農業者連絡協議会員(5人)、愛媛大学留学生(9人)	連携機関	愛媛大学、砥部町	
普及指導内容	<p>○当班は、青年農業者が海外のかんきつ消費嗜好を直接収集できる場として、愛媛大学の留学生(インドネシア、ネパール等)を対象とした試食交流会を企画・実施した。</p> <p>○交流会では、県産かんきつ5品種(「甘平」「いよかん」「せとか」「はるみ」「不知火」)の試食を行い、品種ごとに具体的な意見やニーズを把握した。</p>			
結果と今後	<p>○交流を通じ、留学生からは品質の高さや安全・清潔なイメージが評価され、参加した青年農業者に対し、生産物の強みを再認識させることで経営意欲の向上を促した。</p> <p>○本会で得られた知見は、今後の海外販路開拓やPR戦略の基礎資料として活用する。</p> <p>○今後も青年農業者連絡協議会の活動支援を通じ、地域農業の魅力向上と国際展開に向けた専門的な助言・指導を継続していく。</p>			
				
試食の様子		集合写真		


標 題	休日就農相談会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年2月23日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	就農に興味のある相談者（4人）	連携機関	伊予市（農業振興課・農業委員会） JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○新規就農者の確保に向け、平日の来庁が困難な層をターゲットに休日就農相談会を開催した。</p> <p>○当日は4人（3組）が参加し、就農に対する意向を聞き取った後、各種支援内容等について情報提供し、個々の意向に即した助言・指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○専業就農希望者には、利用可能な支援制度や具体的な研修先を提示し、円滑な就農への道筋を具体化させた。</p> <p>○また、数年後の就農を目指す方には、農地確保の手法や技術習得に向けた講座を紹介し、段階的な準備を促すことで将来への不安を払拭した。</p> <p>○今後も市や JA 等と連携し、各相談者の状況に応じた伴走型の支援を継続するとともに、多様な啓発活動を通じて新規就農者の確保に努めていく。</p>			
 <p>個別面談</p>				



標 題	「梅」がつなぐ地域の輪～連携の土壌づくりと労働力確保の取組み～		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年2月21日～3月8日	場所	砥部町七折	
指導対象	農事組合法人ななおれ梅組合 生産農家(19戸)	連携機関	JA えひめ中央、砥部町観光協会	
普及指導内容	<p>○当班は、産地の持続的発展に向け、「地域連携の強化」を軸とした普及活動を展開。</p> <p>○具体的には、梅まつりを核とした産地振興を提案し、町内の学校や商工団体、飲食店等へ働きかけ、看板制作や出店販売を通じた多世代・多業種による協力体制が実現。</p> <p>○また、課題である労働力不足に対しては、大学や JA との連携や、Web 媒体を網羅的に活用する求人スキームを助言・実行し、7人の人材が確保された。</p>			
結果と今後	<p>○本取組みにより、同イベントを通じ、8事業者の出店と販売支援などの新たな交流を生むとともに、地域連携の土壌を築いた。</p> <p>○今後は、平素の栽培管理における労働力確保を最優先とし、関係人口を農作業へつなげる「実務研修の仕組みづくり」を提案・促進する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>町内幼稚園児・小学生制作の看板等</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>町内外店舗等の協力支援販売</p> </div> </div>				



標 題	青年農業者の視察研修を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年2月17日～18日	場所	徳島県阿波市、小松島市	
指導対象	久万高原町青年農業者連絡協議会 (5人)	連携 機関	久万高原町	
普及指導 内容	<p>○同協議会は、本町の主要品目であるトマトについて栽培技術の向上および農産物の販売状況の把握を目的として、視察研修を実施した。</p> <p>○トマトの多収穫技術の研究開発に取り組む「(株) トマトパーク徳島」では、最先端の環境制御型施設内を視察し、高温対策や栽培技術の意見交換を実施した。</p> <p>○直売所では、生鮮農産物を中心とした取扱品目や価格帯を確認した。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは、高温対策に関する資材や、葉かき作業に使用するナイフなどの作業用具について、日々の作業改善の観点から導入を検討したいとの声が聞かれた。</p> <p>○直売所において実際に農産物を購入する消費者の様子を確認することで、農産物販売への理解が深まり、農業に対する意欲の向上につながった。</p> <p>○今後も会員のさらなる農業経営の発展に向けた活動を支援する。</p>			
			<p>左：トマト栽培施設の視察</p>	
			<p>右：鮮度や価格を確認する会員</p>	


標 題	JA 松山市ピーマン部会 40 周年記念大会を開催		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年2月19日	場所	JA 松山市久万支所	
指導対象	JA 松山市ピーマン部会	連携 機関	JA 松山市、久万高原町	
普及指導 内容	<p>○JA 松山市ピーマン部会が設立 40 周年を迎え、部会員、JA、行政、関係機関、約 100 名が一堂に会し記念大会が開催された。</p> <p>○県からは、地方局農林水産振興部長が出席し、祝辞の中で「えひめ農林水産振興プラン」に基づき、気候変動等のリスクにも対応する儲かる農業や担い手確保・育成を進め、将来にわたり安心して生産活動が継続できる農業の実現を目指し、各種政策を展開していることにふれるなど県の取組みを紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○7年度の部会平均収量は6.5 t /10a、1戸当たり平均販売額は2,516千円で、40年の歴史の中で平均収量は3番目、1戸当たり平均販売額は2番目に高かった。</p> <p>○生産者が一堂に会したことで、産地の底力、活力を目の当たりにすることができた。</p> <p>○生産者は既に次年度に向けた生産意欲を見せており、久万高原農業指導班においても7年度の反省を踏まえ、次年度の単収向上による所得向上を支援する。</p>			
			<p>左：挨拶に立つ部会長</p>	
			<p>右：記念大会の様子</p>	


標 題	そらまめ産地の強化に向けて今年度の取組み状況を報告		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月24日	場所	JA えひめ中央南部営農支援センター及び現地ほ場	
指導対象	関係市町・JA 等関係機関職員（9人）	連携機関	伊予市、松前町、JA（全農えひめ、松山市、えひめ中央）、農林水産研究所	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地方局予算「そらまめ産地強化事業」により、近年問題となっているそらまめの収量低下の原因究明や単収の向上に向けた取組みを実施している。 ○同事業に係る第2回連絡会議を開催し、事業の進捗状況として、生育調査等の調査データや生産者アンケートの結果、先進地事例の調査結果を情報共有した。 ○また、各JAに設置している実証ほ場と農林水産研究所の試験ほ場を見学し、意見交換を実施した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○普段見学しない他機関の実証状況等を確認することで、栽培管理の方法等について活発な情報交換が実施された。 ○来年度4月中旬に黄化症状の発生状況調査を実施すること、5月の収量調査まで実証ほ場の調査を継続していくことを申し合わせた。 ○引き続き関係機関と連携し、そらまめの産地強化を推進する。 			
			<p style="text-align: center;">現地実証ほ場の見学</p>	




標 題	第2回「さくらひめ」検討会を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月26日	場所	東温市牛渕、南方、花き研究指導室	
指導対象	「さくらひめ」生産者及び関係機関職員等（12人）	連携機関	市場（(株)大田花き、(株)なにわ花いちば）、JA えひめ中央、農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「さくらひめ産地強化事業」に係る適時出荷体制の確立に向けた検討会及び現地研修会を開催。 ○今年度の現地実証の結果や生育状況の確認、市場流通の動向、PR活動等に関する意見交換等を実施した。 			
結果と今後	<ul style="list-style-type: none"> ○現地研修では、冷蔵施設内では種から発芽まで管理する自家育苗方式に付随してその後も夜間のみ冷蔵を行う実証により、は種適期を8月下旬まで前進化させ2月出荷を実現できることを紹介し、普及に向けた提案を行った。 ○検討会では、実証結果に基づき作成した「夏季自家育苗マニュアル」により、育苗時期や冷蔵時のポイント等について説明し、技術向上と取組み拡大を図った。 ○また、地元市場関係者から、県内では高校卒業式の需要が最も多く、3月以降も小中学校の卒業式需要が続くため、継続的な出荷について要望があった。 ○これまでの取組みの成果を踏まえ、引き続き、生産者や関係機関と連携しながら、需要期出荷や継続的な安定生産による生産者の収益向上に取り組む。 			
			<p style="text-align: center;">現地研修会の様子</p>	


標 題	いちご高温対策や環境モニタリングを講習		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月25日	場所	鬼北農業指導班、鬼北町近永	
指導対象	宇和島地区いちご研究連絡協議会 (19人)	連携 機関	JA えひめ南	
普及指導 内容	<p>○鬼北農業指導班は、育苗～定植直後の遮光や追肥開始時期など近年の夏秋期異常高温に対応した栽培管理、いちご新品種育成などいちご栽培全般について講演した。</p> <p>○当室は、ハウス環境制御を目的とした安価なリアルタイム温湿度計の紹介、クロマルハナバチ利用上の留意点を紹介した。</p> <p>○現地ほ場の(株)あかまつ農園では、高温対策としての外気導入システム、CO₂施用でのハウス内環境制御、「紅い雫」など栽培4品種の特性を研修した。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは「あまおとめはリピーターが多い」「CO₂施用を導入してみたい」「この価格なら環境モニタリング機器を設置できる」などの意見があった。</p> <p>○今後、高温対策や、モニタリング機器を活用した環境制御技術の普及拡大を目指す。</p>			
				<p>左：記念講演 右：現地研修</p>

標 題	これから導入する人向けの農業用ドローン研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年2月26日	場所	畑地公民館（宇和島市津島町）	
指導対象	宇和島市認定農業者連絡協議会（10人）	連携 機関	松田包装（株）、JA えひめ南、宇和島市	
普及指導 内容	<p>○ドローンの作業請負や技術講習などを手がける松田包装（株）の担当者を講師に招き、導入にあたっての基礎知識などに関する研修会を開催した。</p> <p>○室内でのドローン導入に必要な申請や維持管理等の講義、飛行ルート設定のシミュレーション等を学んだ後、河内晩柑ほ場に移動して、実際の農薬散布を見学した。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者からは、機体整備の注意点や測量方法、具体的な散布技術など、次々と質問があり、関心の高さが伺えた。</p> <p>○ドローンは省力化に欠かせない技術の一つとして普及が進んでおり、今後も各種省力化技術とあわせて、研修会などを通じ会員の見識を深めていく。</p>			
				<p>左：室内研修 右：かんきつ園における現地研修</p>

標 題	加工品づくりで高校生と交流		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年2月18日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	鬼北地区生活研究協議会員（9人）	連携機関	県立北宇和高校	
普及指導内容	<p>○会員の地域農産物の活用技術の向上を図るため、地域農産物を活用した菓子などの製造に取り組んでいる県立北宇和高校において、洋菓子づくりの研修会を初めて開催した。</p> <p>○生徒6人が先生役となって、会員といっしょに地域の特産であるゆずを使用したマドレーヌづくりを行い、その後意見交換等で交流を深めた。</p>			
結果と今後	<p>○会員からは「ゆずが入ることで味のアクセントになっていて美味しい」「ゆず皮が生地の中に隠れてしまうのが残念」、生徒からは「地域の人と交流することができ、楽しく作ることができた」などの意見が聞かれた。</p> <p>○今後も、地域農産物の活用や地域活性化に向けた活動を支援する。</p>			
			<p>左：始めのあいさつ 右：高校生との共同作業</p>	

標 題	鬼北農業の未来を切り拓く—ゆずを核に地域活性化につなげる—		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年2月20日	場所	JA えひめ南鬼北支所	
指導対象	鬼北地区農業者等（50人）	連携機関	鬼北町、松野町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○地域農業の振興を図る「鬼北夢農業を語る会」が開催され、地元加工業者や高校生から、鬼北農業の未来を見据えた提言や、熱意溢れる発表が行われた。</p> <p>○愛媛県認定農業者連絡協議会長で農業指導士の加賀田氏からは、自身の経営哲学や役職経験を通じた地域リーダーの役割等について発表が行われた。</p> <p>○鬼北産ゆずの加工に取り組む（株）高田商店の社長からは、地元のゆずとともに成長してきた歴史を振り返り、今後も地域とともに歩んでいきたいとの力強い講演が行われた。</p>			
結果と今後	<p>○本会は、ベテラン経営者から現役高校生まで、世代を超えた「鬼北農業への想い」が結集する貴重な場となった。</p> <p>○今後、当地域の基幹品目であるゆずについて、生産・加工・販売を地域で一貫して取り組み、地域活性化につなげていく機運が一層高めていく。</p>			
			<p>鬼北農業への想い集まる講演・発表</p>	

標 題	農地の石垣修繕におけるノウハウの次世代継承を推進		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年2月4日	場所	愛南町役場、愛南町御荘平山	
指導対象	青年農業者及び認定農業者(9人)	連携機関	明浜町狩江地区「かりとりもさくの会」	
普及指導内容	<p>○愛南町では、土砂流亡や獣害によって石垣が崩落した園地が多数点在しているが、修繕技術の継承が十分でなく、専門的な石積み技術の習得が喫緊の課題となっている。</p> <p>○そこで、専門講師の指導のもと研修会を開催し、力学的な視点に基づいた積み方に関する座学、実際に石垣が崩落した園地で石積みの実践研修を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、活発に意見交換しながら適切な積み方を試行錯誤し、「力学的な視点を取り入れることで、強固な石積み方法が分かった」「今後、実際に自身の園地でもこの技術を活用していきたい」と技術習得に意欲的だった。</p> <p>○今後、愛南地区青年農業者協議会では会員相互で石垣修繕に取り組みながら、技術研鑽並びに地域への継承に取り組むこととなり、当班は引き続き、地域の中核となる青年農業者、認定農業者のニーズに応じた研修会を開催していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：室内研修 中：実践研修 右：修繕後の園地</p> </div> </div>				

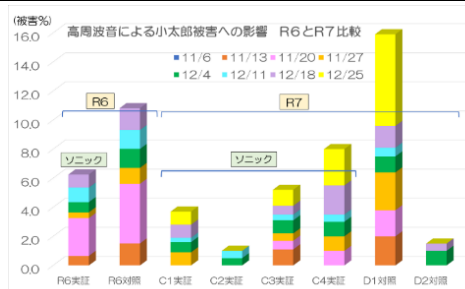
標 題	期待高まる新品種「にじのきらめき」の栽培拡大がすすむ		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年2月16日	場所	JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	にじのきらめき栽培予定者(48人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○新品種「にじのきらめき」について、昨年度の実証結果をもとにした栽培ポイントや愛南町ならではの「ブロッコリー＋水稻」の二毛作実証結果からみた栽培のコツについて研修を行った。</p> <p>○また、同日開催されたJAの稲作・野菜部会南宇和支部の合同三役会(関係者17人)では、全国的に不足が伝わる「にじのきらめき」種子の供給状況や今後の二毛作推進体制について協議された。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「収量を上げる植え方は」「害虫対策はどうするのか」など積極的な質問が寄せられ、新品種に対する関心の高さが感じられた。</p> <p>○「にじのきらめき」は食味や品質に優れ、地域の新たな主力品種として期待が高まっており、今年度約100haに拡大する見込み。</p> <p>○当班では、今後も研修会や実証ほ調査などにより高品質な米づくりや、ブロッコリーとの二毛作に向けた取組みを支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>実証結果の報告を資料とともに確認する出席者</p> </div> </div>				

標 題	県外客をターゲットに販促活動		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月8日	場所	タオル美術館	
指導対象	—	連携機関	道の駅みま、タオル美術館グループ	
普及指導内容	<p>○南予の特産品の顧客獲得ならびに知名度向上を目的に、県外からの集客力の高い観光施設入口に南予の農産物特設コーナーを設置し、販促活動を行った。</p> <p>○宇和島市三間町産いちご「レッドパール」や県オリジナル品種「媛小春」等かんきつの試食販売を行った。</p>			
結果と今後	<p>○「(いちごは) 聞いたことがない品種だったが甘くて美味しい」「(媛小春は) 色味に対して酸味もなく美味しい」と、試食した県外客から高い評価を得た。</p> <p>○降雪の影響により休日の来客数としては少なめであったが、「レッドパール」40 パック、「媛小春」約 25kg を早々に完売し、南予の農産物を PR することができた。</p> <p>○同駅では、3月に新たな他県直売所との産品交流を計画する等、今後も販路拡大や商品 PR による更なる顧客獲得について、継続的に取り組む予定である。</p>			






左：こみきゃんとも連携して「媛小春」を販売
右：職員（右奥）の説明に消費者も興味津々



標 題	高周波音による鳥害対策実証結果の検討会		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 産地戦略推進室
年月日	令和8年1月29日	場所	JAにしうわ川上共選	
指導対象	JAにしうわ川上共選及び実証農家（6人）		連携機関	JAにしうわ
普及指導内容	<p>○当室は、川上地区で10月から実証している高周波音による鳥類の忌避効果について、実証農家6名や関係機関参集の下、実証結果の検討会を開催した。</p> <p>○7年度はヒヨドリ、メジロの発生がほとんどなく被害もなかったため、効果の判定ができなかったが、土地に居ついているカラスについては、昨年と同様に「有袋品種に対する高周波音は、カラスでは効果がある」結果が得られたことを報告した。</p>			
結果と今後	<p>○実証農家からは「高周波音によって、カラスの被害は明らかに減った」「忌避効果を求めるだけでなく捕獲してはどうか」「カラスへの効果は確認することができたが、ヒヨドリやメジロについてはどうか」などの意見があった。</p> <p>○8年度はヒヨドリが大発生する恐れもあるため、これまでと同様に高周波音の実証を地区で継続することとなった。</p>			





左：カラス被害結果（小太郎）
右：実証農家による検討会

【小太郎】早生温州のS, 2S果に紙袋を掛けて正月前後に収穫し、袋のまま化粧箱に入れて出荷する JAにしうわ川上共選のブランド品



標 題	集落ぐるみの鳥獣害対策に取り組む		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 産地戦略推進室
年月日	令和8年2月19日	場所	八幡浜市川上町川名津、JAにしうわ 川上共選	
指導対象	川上猟友会、関係農家（10人）	連携 機関	八幡浜市、JAにしうわ	
普及指導 内容	○川上猟友会と当室が共催し、川上地区農業者の鳥獣害対策の技術向上のため、集落内のワイヤーメッシュ見回り点検と併せ、ワイヤーメッシュ設置講習会を開催した。 ○当日は、設置の際に使用する各種資材や道具の使用方法について実演するとともに、講習会実施後には、今後の地区鳥獣害対策の活動スケジュールについて協議した。			
結果と 今後	○農業者からは、「ワイヤーメッシュ設置は重労働であるが、複数農家で連携し、機器を使うことで効率的に実施できる」という声が大半であった。 ○今後の活動として、今年度の集落ぐるみの点検活動、高周波音機器による忌避効果実証の継続や、新たに取り組むヒヨドリ捕獲檻の実証を予定している。			
				
各種器具での鉄筋の打ち込み				8年度地区活動申合せ


標 題	青年農業者が首都圏の小学生に西宇和かんきつをPR！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年2月19日～20日	場所	東京都目黒区立烏森小学校 東京都小平市立小平第三小学校	
指導対象	八西地区青年農業者連絡協議会員（3人）及び首都圏小学生（188人）	連携 機関	上記小学校	
普及指導 内容	○八西地区青年農業者連絡協議会が実施する首都圏小学校での出前授業を支援した。 ○授業では、5年生児童らに対し、かんきつ栽培のDVD鑑賞をはじめ、現地で使用している肥料や資材に触れる体験や、会員が栽培した「甘平」「宮内伊予柑」「宮川早生」の3品種の食べ比べを実施した。			
結果と 今後	○食べ比べでは「甘平」が最も人気で、楽しみながらそれぞれの味の違いを学ぶ様子が見られた。 ○授業後には「普段食べているみかんの向こう側に生産者の思いや努力があることが分かった」「今日の体験が宝物になった」といった感想が聞かれ、農業への関心が高まったことをうかがわせた。 ○本取組みは、首都圏における西宇和みかんのPRと青年農業者の資質向上につながるものとして、15年以上実施しており、八西地区の代名詞となっている。当室では、今後も地域や農業の魅力を伝える青年農業者の活動を支援していく。			
				<p>左：中晩柑の食べ比べ</p> <p>右：かんきつ質問コーナー</p>

標 題	スマート農機の安全利用のための講習会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年2月2日	場所	内子町五百木	
指導対象	認定農業者、女性農業者、研修生 (5人)	連携 機関	—	
普及指導 内容	<p>○他職種と比べ死傷事故の多い農作業事故の防止を目的に、自動防除機「R150」と無人航空機（ドローン）を題材とした安全講習を開催した。</p> <p>○日本ディーアールシステム（株）職員とスマート農機導入農業者を講師として、操作方法や使用時の注意事項等に関する知識習得を図った。</p> <p>○実機に触れる機会と稼働する時間を設けることで、機器の危険性や安全対策による危険防止効果を体感できる講習会とした。</p>			
結果と 今後	<p>○参加者は「スマート農機使用時の危険に対し、安全策の有効性が体感でき具体的でわかりやすく、参考になった」等、スマート農機導入の意欲を示していた。</p> <p>○今後、従前と異なる多種多様な農業機械が普及していくことが考えられるため、当班では、機器や取扱い方に応じた安全対策と普及指導に取り組んでいく。</p>			
		<p>左：講演の様子</p> <p>右：スマート農機（R150）実演</p>		

標 題	地域の担い手が資質向上を目指して合同研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年2月20日	場所	にし川（大洲市田口）	
指導対象	認定農業者、青年農業者（56人）	連携 機関	大洲市、内子町、JA 愛媛たいき 県立大洲農業高校	
普及指導 内容	<p>○組織間交流や農業知識の習得などを目的に、大洲喜多地区認定農業者協議会、青年農業者連絡協議会と共催し、合同研修会を実施した。</p> <p>○青年農業者や県立大洲農業高校生が取り組むプロジェクト発表や、温暖化に対応した農産物の高温対策について講師を招き研修を実施するなど、農業の担い手として今後の経営の参考となる内容とし、お互いに情報交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○青年農業者のプロジェクト発表では、農業指導士等による審査が行われ、内子町の活動「未来への種まき～遊休農地再生から始まる次世代育成と付加価値～」が最優秀賞に選ばれ、4月に開催される「若い農業経営者大会」で発表することが決まった。</p> <p>○年代や経験が異なる幅広い層が交流できる機会となり、「地域ごとの課題や取り組みについて具体的な意見交換ができて良かった」と参加者からは好評であった。</p> <p>○当班は、引き続き関係機関と連携し定期的な研修会の開催を支援するとともに、地域の担い手育成支援を継続する。</p>			
		<p>左：青年農業者のプロジェクト活動最優秀賞の表彰</p> <p>右：高校生によるプロジェクト活動の発表</p>		

標 題	西予で高温対策セミナーを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和8年1月29日	場所	宇和地域づくり活動センター	
指導対象	西予認定農業者協議会員、西予青年 農業者連絡協議会員他（77人）	連携 機関	農林水産研究所、みかん研究所、 西予市	
普及指導 内容	<p>○認定農業者組織と青年農業者組織が共催する西予地区高温対策セミナーの開催を支援した。</p> <p>○県内農業関連会社で技術アドバイザーとして活躍する専門家が「気候変動に備え、良好な植物を育てる」と題し、今後の高温対策について、植物体の生理生態をもとに、現場の実例等を交えながら講演した。</p> <p>○また、農林水産研究所から、気候変動下における水稻・野菜・病害虫発生予察の取組みと、みかん研究所から、かんきつの日焼け症対策について情報提供された。</p>			
結果と今後	<p>○今回のセミナーは、高温対策の情報収集の場となるとともに、気候変動に負けない力強い農業の在り方を、一步踏み込んで考える良い機会となった。</p> <p>○当班では、今後も各種講習会等を通して高温対策の技術指導、情報提供、実証試験を行い、収量と品質を守りながら安定した農業経営ができるよう支援していく。</p>			
		講演の様子		

標 題	大阪で「媛小春」をPR販売		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和8年2月12日～13日	場所	大阪事務所前	
指導対象	—	連携 機関	「南予の媛小春」魅力アップ協議会、 大阪事務所	
普及指導 内容	<p>○「媛小春」の認知度向上と販路拡大による産地の発展を目指し、同協議会が県外で実施するPR販売の支援を行った。</p> <p>○販促グッズの配布や、「みきゃん」写真撮影会によって効果的に集客を行い、味の良さをPRするため試食を行うとともに、認知度等を把握するためのアンケート調査を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○アンケート調査の結果、94%が美味しい、まあ美味しいとの高評価であった一方、82%が知らなかったと回答し認知度が低いことを確認した。</p> <p>○「家族や友達にあげたいから」「美味しかったから2日連続で来た」と数袋購入する消費者も見られ、予定していた販売数量が早々に完売した。</p> <p>○「媛小春」の認知度はまだまだ低いため、引き続き関係機関と連携し認知度向上に取り組む。</p>			
				
		<p>左：アンケート調査 右：販売ブースとみきゃん</p>		

標 題	普及指導計画取組み状況報告会で成果を共有		機関名	農産園芸課
年月日	令和8年2月9日	場所	県庁（松山市番町）	
指導対象	普及指導員等（102人）	連携機関	各普及拠点、試験研究機関等	
普及指導内容	<p>○農産園芸課革新支援センターは、普及指導計画の進捗共有と課題整理を目的に、現地会場に加え、本庁と各普及拠点、試験研究機関等をリモートで結び報告会を開催した。</p> <p>○報告会では、各普及拠点から普及ビジョンの取組み状況について5課題、高度普及推進グループから1課題の報告があり、部内関係者らが取組みの方向性や改善点について助言した。</p>			
結果と今後	<p>○現地とリモートを合わせて102人が参加し、デジタル技術を活用した農業者の生産性向上や新規就農者の確保、鳥獣害対策など、普及指導員の現場活動の成果を広く共有することができた。</p> <p>○今後は、3月に実施する次年度普及計画策定のヒアリングにおいて、得られた意見や成果の活用方法を具体化し、普及活動への反映を進める。</p>			
 <p>ブロッコリー産地振興の報告</p>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543